

兵庫県保険医協会神戸支部 研究会のご案内

異常気象と地球温暖化

日 時 7 月 26 日 (土) 15 時～16 時 30 分

会 場 兵庫県保険医協会 5 階会議室

(JR・阪神元町駅東口を出て南へ徒歩 7 分)

講 師 気象予報士 森 朗さん

※ご来場での講演となります

参加費 無料 定 員 50 人 (先着順)

昨年夏は、一昨年の 2023 年と並んで「最も暑い夏」になったとされました。今年の夏も暑くなる可能性が高いと報じられています。また、毎年のように「百年に一度」とされる豪雨や洪水等が各地で起こっており、異常気象と言え、その原因とされる地球温暖化への対策が求められています。

温暖化・気候変動は健康への悪影響も及ぼし、医療関係者が考えるべき重要な問題の一つと言えます。

神戸支部では、暑い夏を迎えるにあたって、異常気象と地球温暖化について考える学習会を企画しました。TBS「ひるおび」で、気象情報を分かりやすく説明されている森朗さんに、なぜ異常気象が起こっているのか、私たちが取るべき行動などについてお話いただきます。

多くの先生、スタッフ、ご家族の皆様のご参加をお待ちしております。



【森朗さんプロフィール】1959 年東京都生まれ、兵庫県西宮市育ち。大学卒業後は日鉄建材工業（現日鉄住金建材）に入社し、経理・総務・営業職に従事。趣味のウィンドサーフィンや海好きが高じて 1995 年に気象予報士資格を取得し、ウェザーマップに入社。TOKYOMX 気象キャスターを経て、TBS「ひるおび」など、テレビ・ラジオ番組に多数出演。全国で講演活動も行っている。2017 年 7 月よりウェザーマップ代表取締役社長。著書「異常気象はなぜ増えたのかーゼロからわかる天気のおくみ」(祥伝社)、監修「気候危機がサクッとわかる本」(東京書籍) など

* お問い合わせは TEL 078-393-1807 神戸支部担当 小西まで

―― 【神戸支部研究会参加申し込み】FAX 返信：078-393-1820 ――

来場参加申し込み

地区 _____ 医療機関・施設名 _____

代表者お名前 _____ 参加人数 _____ 人 TEL _____

兵庫県保険医協会

神戸支部ニュース

388 号

2025 年 6 月 25 日付

発行 兵庫県保険医協会神戸支部

〒650-0024 神戸市中央区海岸通 1-2-31 神戸フコク生命海岸通ビル 5 F

兵庫県保険医協会 TEL078-393-1801 FAX078-393-1802

神戸支部が講師派遣に協力

聴覚障がい者の“いのち”を考える会 200 回迎える



節目となった第 200 回目の参加者で記念撮影。前列中央右は講師を務めた松本具樹先生

神戸支部は 5 月 22 日に、あすてっふ神戸で健康と医療について語り合う会を開催した。これは聴覚障がい者らが医療や健康についての情報を学ぼうと定期的に行う「聴覚障がい者の医療を考える会（“いのち”を考える会）」の講師派遣の要請に応じているもの。中央区・精療クリニック小林副院長の松本具樹先生が「五月病という病気がある～新しい生活が始まった。でも元気がない～」と題して講演し、市民、聴覚障がい者の方を中心に 28 名が参加した。

今回は 1987 年の開催から 200 回目にあたり、公益社団法人兵庫県聴覚障害者協会と兵庫県手話通訳問題研究会から感謝状が授与された。「聴覚障がい者の“いのち”を考える会」共同代表の柴田明医師からの謝辞と、参加者からの感想文を紹介する。

(2面へつづく)

(1 面からのつづき)

「謝辞」 聴覚障がい者に寄り添った医療のあり方ともに考える

2025 年 5 月 22 日

「聴覚障がい者の“いのち”を考える会」共同代表 柴田 明

「聴覚障がい者の“いのち”を考える会」は、この 5 月 22 日に第 200 回を迎えました。1987 年 11 月 5 日の第 1 回から 37 年余り、兵庫県保険医協会には講師の派遣などで会を支え続けていただきました。今、心の底から感謝申し上げます。

思い起こせば、会創設の推進役は、今は故人となってしまった小松博さんでした。彼は保険医協会に勤めると共に、兵庫県ろうあ連盟副委員長として、聴覚障がい者の医療環境を整える役割を担っていました。医療手話を決めること、診療に手話通訳者が同伴することなど、今では当たり前の前提になっていることも、この会の開催を通じて、小松さんが推進して行ったことでした。私たちは彼の思いの後をたどって今に至っています。

しかし、彼の思いはもう少し先にありました。「自分の苦痛、悩み、状態について、医者に直接訴えたい」と彼は言っておりました。これはいまだ実現していない彼の思いです。IT 機器関連が想像を越えて発展して来ている今、小松さんならば、どのような思いを医療に広げて行ったのか。彼の後をたどって来た私たちは、次のステップにも目を向けたいと思います。

話が広がり過ぎましたが、保険医協会が、これまでと同じように、聴覚障がい者に寄り添った医療のあり方を考えていただける存在であることを願います。37 年余りの感謝とこれからの希望を込め、2 団体からの感謝状に添えて、私たちからの謝辞もお贈りしたいと思います。

最後になってしまいましたが、これまで講師として会を支えていただいた 157 名の先生方にも、同様の謝辞をお贈りしたいと思います。皆様、本当にありがとうございました。

(感想文)

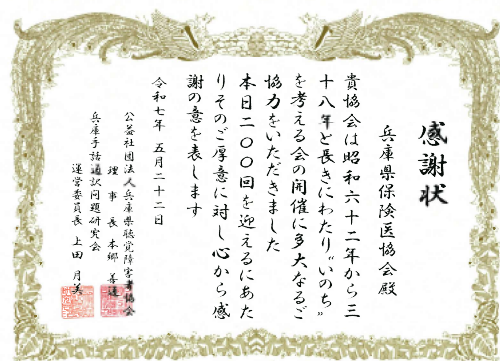
学習会を後世へ受け継ぎ発展を願って

いのちを考える会第 200 回という記念すべき会に参加でき、とても光栄に思います。いのちを考える会は聴覚障がい者の医療を考え、医療をより身近に感じていただけるよう開催されてきました。感謝状贈呈式の際には第 1 回開催時の議事録についてのお話もあり、今までのいのちを考える会の歴史を感じるとともに、保険医協会に所属する先生方のご協力あってこそこの開催だということを改めて感じる機会となりました。

第 200 回は「五月病に気づく」をテーマに松本先生にご講演いただきました。季節にあった内容で、身近な生活の場面に合わせてお話いただいたこともあり、とても勉強になりました。

きこえる人ときこえない人が共に学べるこの会が今後も末永く続いていくことを願っています。

【兵庫県手話通訳者問題研究会 医療班 藤原萌衣】



2025 年度西区社会保障推進協議会総会・学習会を開催

“西区の PFAS 問題 神戸市は対応を



松本勝雄氏（中央）が解説し永遠の化学物質 PFAS について学んだ

神戸支部も参加する西区社会保障推進協議会（西区社保協）は、6 月 1 日に西区文化センターにおいて、2025 年度総会を開催し、21 人が参加した。総会議事では 24 年度まとめと 25 年度方針を承認するとともに、柏木一英会長（協会評議員）ら役員を選出した。学習会では、PFAS 問題を考える西区有志の会の松本勝雄氏が「西区の PFAS 問題に関する現状と今後」と題して学習会をした。

松本氏は PFAS とは何か、何が問題なのか、政府や地方自治体の対応などを解説。

PFAS とは、有機フッ素化合物の総称で水や油をよくはじく、紫外線なども通さず熱にも薬品にも強いという特性から、様々な工業製品に使用されてきた。自然環境下で分解されにくく蓄積する、ヒトの体内からは移出しにくく、体内で肝臓から腸に排出されても他の体液と一緒に肝臓などに戻り、肝臓から尿への排出も少なく、95%排出に 40 年かかると危険性を解説。

明石川流域で高濃度の PFAS 汚染が見つかり、対応を求めて市会に陳情を出すなど働きかけているが、論戦を聞いていると神戸市政の公害問題に対する後退を感じる。

産廃が汚染源と誰もが言い、産廃業者がメディアのインタビューでも排出をしているということを認め、NHK などメディアも報じているのに市は「汚染源を探したが見つからなかった」と答弁している。

明石市が産廃からの排水を測定しても、神戸市は「河川ではなく水路だから」と測定せず、明石市の測定値も無視しており、このままでは明石川の PFAS 汚染は改善しないと批判した。